

科目	診療の補助技術				
時間数	1単位 30時間	授業方法	講義、演習	授業時期	1年
講師名	③矢野美穂 ③守谷瑞穂 ③藤田景子				
実務経験	③看護師(医療機関)				
ねらい	呼吸・循環を整える技術(酸素吸入療法、ネブライザー、吸引、ドレナージ)・排泄援助技術(導尿、留置カテーテル、浣腸)・食事の援助技術(経管栄養)等、生体の変化を整えるための技術を習得する。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸・循環を整える技術を手順通りにモデル人形を使って実施できる。 2. 排泄援助技術を手順通りにモデル人形を使って実施できる。 3. 食事の援助技術を手順通りにモデル人形を使って実施できる。 4. 褥瘡発生機序とアセスメント方法を理解し、褥瘡予防のケアが実施できる。 				
授業計画					
回	内容				
1	経管栄養法による流動食注入、経鼻胃チューブの挿入				
2	演習				
3	膀胱留置カテーテルの管理、導尿または膀胱留置カテーテルの挿入				
4	演習				
5	浣腸、摘便				
6	演習				
7	体温調節の援助(温罨法と冷罨法)				
8	演習				
9	酸素吸入療法、ネブライザーを用いた気管内加湿、				
10	演習				
11	口腔内吸引、鼻腔内吸引、気管内吸引、体位ドレナージ				
12	演習(施設にて)				
13	褥瘡予防ケア、創傷処置(包帯法)				
14	演習				
15	まとめ、テスト				
評価方法	<p>その時間数の3分の2以上の出席者に限り受験資格を与える。</p> <p>学科終講時に行う筆記試験90%、ワークシート・デジタル教材取り組み状況10%及び平素の学習状況を総合して評価する。</p> <p>60点以上を及第点とする。</p> <p>技術を実施し、手順通りに実施できれば経験録に捺印する。</p>				
教科書	<p>基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ:医学書院</p> <p>根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 第4版:医学書院</p> <p>その他の教材:デジタル教材</p>				